神戸大学医学部附属病院

救命救急科

指導担当医（役職）

山田　勇（特命教授）、小谷　穣治（教授）

実習概要

実習コース

２週間コース・４週間コースどちらも可

概要

１．目的と特徴

「臨床実習３」は、５年次「臨床実習１」を補完し、臨床現場により密着し、救急医療を肌で体験することにより、災害・救急医療の現状をより深く理解し、今までに学んだ知識等、臨床能力の向上を図る目的とする。

具体的には、大学病院救急部におけるより深い実習、並びに大学病院とは異なったシステムで運営されている病院での救急診療研修を体験する。

２．実習目標／実習内容

（１）救急診療の基本

vital signの取り方、緊急度と重症度の把握、鑑別診断、緊急検査、医師と患者･家族とのコミュニケーション、インフォームド・コンセント、病歴の聴取・整理・記録、コメディカルとのチーム医療

（２）心肺蘇生法

一次救命処置および二次救命処置（ALS）修得、蘇生後脳症などの病態把握とその治療

（３）ショックおよび各種症状の診断と治療

各種ショック病態の把握と処置、および意識障害、頭痛、胸痛、呼吸困難、腹痛、吐下血、その他の症状で来院もしくは救急搬送される傷病者の診断および治療の手順を理解する。また、気道確保、輸液路確保、止血法、各種カテーテル挿入法などについて学ぶ。さらに、緊急医薬品や輸血製剤などの使用方法などについて理解を深める。

（４）重症救急患者の全身管理（集中治療）

各種機器の取り扱いとモニタリングの意義、呼吸・循環管理、体液管理、栄養管理、感染対策、臓器不全対策などを習得する。

（５）重症外傷・熱傷患者の診断と治療

JATEC™に基づく外傷初期診療、多発外傷、外傷後感染（破傷風、ガス壊疽）、熱傷（化学熱傷、電撃症等を含む）

（６）急性中毒の診断と治療

薬物中毒、一酸化炭素中毒、その他中毒の病態把握と初期治療

（７）救急医療システム、災害医療システム、他

病院前救護（プレホスピタルケア）体制、メディカルコントロール体制、救急医療情報システム、地域救急医療機関の現況、災害時医療体制などについて理解を深める。

３．実習スケジュール

大学病院救急部では日勤、夜勤等の交代勤務制にあわせた時間で行う。他病院では先方の実習受け入れ時間にあわせた時間で行う。

学生へのメッセージ

どの診療科に進んでも必ず患者の急変事態には遭遇する。そのときに正しい初期治療ができなければ患者の予後は著しく悪くなるが、うまくやれば著しく良くなる。しかも、そのときは突然訪れる。とっさの事態に対応するには日常的にシミュレーションしておくことが肝要である。

この実習では、重症患者の初期治療の理論と方法、またその後の重症病態の考え方と治療アプローチ、さらには世の中の救急医療システムと災害時の医療システムなどを学んでいただき、常に心の中に「いざというときが来たらこうしよう」という意識を持っていただけるようにしたい。